

# 令和4年度学びチャレンジリーディングスクール実施報告書(3年次)

学校名	北九州市立千代小学校	校長名	戸次 健治
教科等名 ( A B C の いずれかを ○で囲む)	A 教科等( ) <b>○ B 複数教科等</b> C 補充学習	学級数	16学級

○ 研究主題

**考えを深め・広げ・課題解決につなぐ教科等の取組**

○ 研究のねらい

学級の支持的風土をつくる「学級力」の取組を基盤として、学習指導要領に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりの工夫を行うことで、児童の、思考力・判断力・表現力、実践力・行動力、協調性や人間関係力等、多様な資質・能力の育成を目指す。

○ 取組の概要

① 考えを深め、広げる学びを具現化する授業改善

【課題設定の工夫】

【学習展開の工夫】



児童の実態に応じた課題にした  
り、提示方法を工夫したりする。多  
くの児童が主体的に学習へ取り組  
むことのできるようにした。

話し合う場面を意図的に仕組む。  
事前に個人思考の時間をとり、自分  
の考えと比べながら友達の考えを  
聞くことができるようにした。

② よりよい課題解決へと向かうための評価の工夫

【ルーブリックを活用した教師の評価】

	課題設定・自己解決	協働解決	一斉検証
評価 規準	余りとなる数の関係性を話し合うことを通して、余りはいつもわる数より小さくなることを理解することができる。		
3	2人の考えを比較し、余りに着目し て、理由を加えながら、自分の考え をもつことができる。	グループで考えを伝えあい、自分の 考えについて資料を指し示しなが ら話したり、友達の考えを聞いたり することができる。	自分の考えを発表したり、自分の考 えと比べながら友達の考えを聞い たりすることで、自分の考えをより よいものに変えることができる。
2	2人の考えを比較し、違いに気づく ことができる。	グループで考えを伝えあい、自分の 考えを伝えたり、友達の考えを聞い たりすることができる。	自分の考えを発表したり、友達の考 えを聞いたりすることができる。
1	2人の考えを比較し、違いに気づく ことができない。	グループで自分の考えを伝えたり、 友達の考えを聞いたりすることが できない。	自分の考えを発表したり、みんなの 考えを聞いたりすることができな い。

令和4年度の  
研究の実際



話し合い活動では、教師がルーブリックを活用しながら評価を行った。また、振り返りの場面において、児童が個人思考や全体での話し合いの振り返りを行った。これらを活用し、教師は、児童の達成状況を把握すると共に、肯定的なフィードバックを行うようにした。

### ③ 広げる・つなげる対話力の育成

#### 【発達段階に応じた聞き方・話し方指導の充実】

・聞くスキル		低学年	中学年	高学年
話す人に体を向けて聞く			→	
最後までだまって聞く			大切なこと（5W1H）を落とさずに聞く（メモをとる）	事実と意見を区別しながら聞く（メモをとる）
どんな内容かを考えながら聞く（「なるほど」、頷く等）			自分の考えと比べながら聞く（反応を示す）	話し手の意図をとらえ、自分の考えと比べながら聞く
わからないことは質問する（「もう一度言って」等）			どこがわからないかを具体的に聞く	
・話すスキル		低学年	中学年	高学年
聞き手に体を向けて話す			→	
聞き手の聞きやすい声で話す（声の大きさ、速さ等）			→	
その場にあった話し方で話す（声の大きさ、ていねい語）			→	相手や場に応じた内容や言葉づかいで話す
順序よく話す			つなぎ言葉をつかって話す	効果的な表現を用いて話す（引用、例示等）
理由をつけて話す			構成を工夫して話す	必要な資料等を選び、示しながら話す
			資料を指し示しながら話す（絵や図等）	
			大切なこと（5W1H）を落とさずに話す	

学校全体で、「聞く・話す」スキルの共通認識をもち、普段の学習から指導に取り組んでいった。

令和4年度の  
成果と課題

#### ○ 成果

① 導入の工夫やICTの活用により、様々な場面で主体的に学ぼうとする児童の姿が見られた。

#### ○ 課題

① コロナ禍で制限も多く、話し合い活動を充分に行うことができなかった。今後も「学級力」を充実させ、より一層、対話的な学びを深めていく必要がある。

② 年度当初から職員全体で共通理解を図り、より効果的な取組にしていかなければならない。公開授業等については、見通しをもち、計画的に進めていけるようにしたい。